

大田原市の森林資源について



菊池 久光 議員



質問…大田原産出材の需要拡大・有効活用のための施策について伺います。

答弁…本市では、本年4月1日から運用を開始した「大田原市産出材の家づくり支援事業費補助金制度」による木造住宅の建築の支援のほか、市内小中学校のロッカー等の木質化や今後整備予定の弓道場への活用など、公共施設における利用を積極的

に進め、需要拡大と有効活用に努めています。

質問…住宅以外の店舗や事務所の建築時に大田原産材を使って建築した場合に、この補助金も今後は考えていくべきだと思いますが、市の考えを伺います。

答弁…店舗等の非住宅建築物の木造化・木質化は、木材の需要拡大につながるだけでなく、市民等の来訪者が日常的に木のぬ

くもりに触れて、その魅力を体感できる大変有意義な取組であると考えています。新たな補助制度の創設については、まずは現在実施している住宅向けの補助事業の利用状況や効果、また、ほかの自治体における非住宅向けの支援事例などを調査研究の上、検討していきます。

一般質問



大塚 正義 議員



一般国道461号「黒羽バイパス」整備に伴うまちづくりについて

質問…バイパス整備に伴う黒羽地区のまちづくりをどのように考えているのか伺います。

答弁…バイパスの整備は、交通渋滞の緩和や歩行者等の安全確保など地域環境の改善が図られるほか、物流効率の向上による地域産業の活性化、沿線地域の開発事業が拡大するなど、市民生活の利便性向上のみならず、地域経済の活性化が期待できま

す。さらに、緊急時の物資輸送路線としての機能強化や代替路の確保など、防災機能の向上につながるものです。これらのバイパス整備によるプラスの効果を最大限に享受できるよう、黒羽地区の特色である観光資源を生かしたまちづくりを推進するとともに、地域全体で経済、生活環境、自然環境のバランスの取れた持続可能なまちづくりを

進めることが重要と考えています。黒羽バイパスの整備を黒羽地区の持続的発展につながる重要な転換点であると捉え、事業主体である栃木県と共にバイパス整備を契機としたまちづくりを進めていきます。本年度から事業着手し、本年度は用地測量を実施する予定です。現時点で、供用開始の具体的な時期は示されていません。